

⑤ 風とアサギマダラの生活 5 (2021.10.24)

——藤袴を一か月間咲き続けさせる計画——

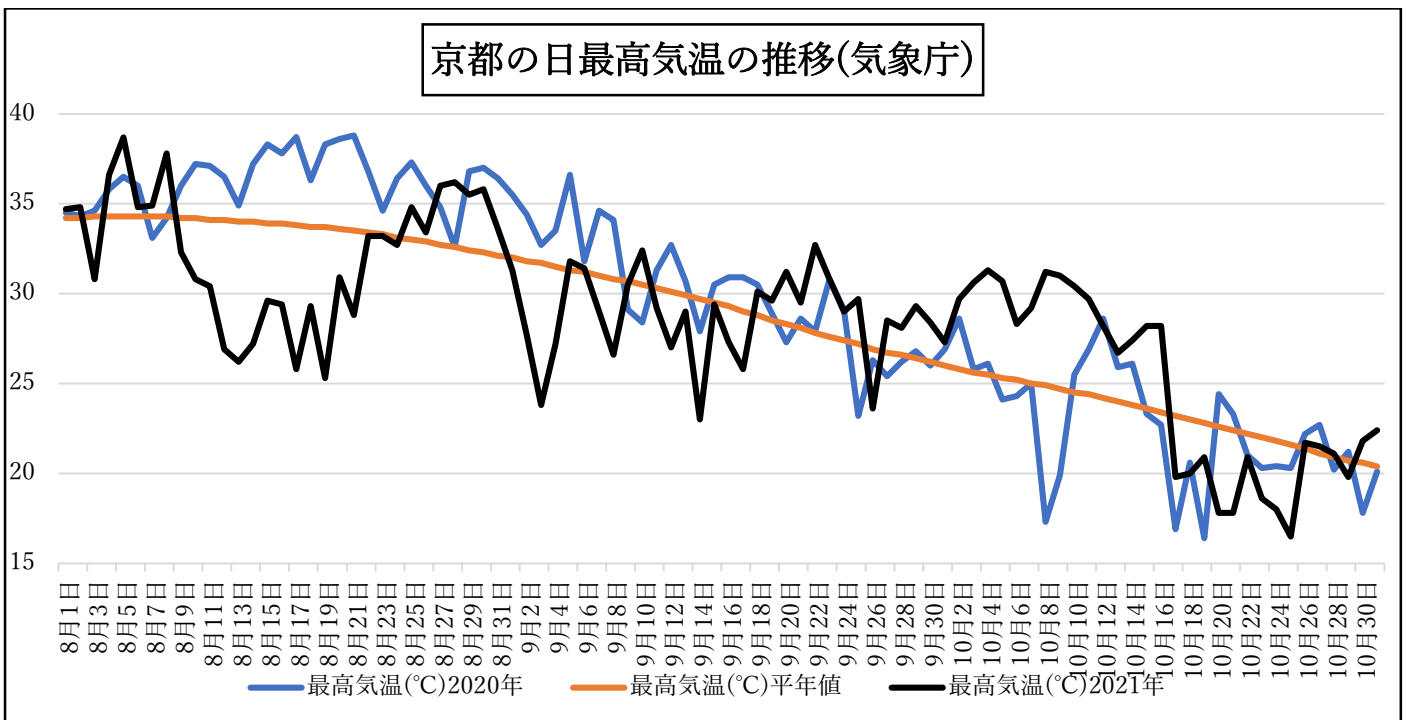
地球温暖化を背景に、この秋は京都自生種フジバカマの開花が早まり、肝心のアサギマダラが飛来する時期には花が終わってしまいました。それでは困るので、来年は花の時期を遅らせる為の剪定は、5日おきに3回に分けてやろうと思っています。(7/10・7/15・7/20)



(一番上が京都自生種・その次がコバノフジバカマ・右下が山ヒヨドリ) (京都原種は9月20日ごろに満開を迎えました)

フジバカマの種類は、一番手の京都原種に続いてコバノフジバカマ、その次は山口県自生種のフジバカマに加えて、山ヒヨドリバナを植栽することにより、来年は9月中旬から10月下旬まで切れ目なく花が咲き続けるようになると期待しています。地球温暖化により、アサギマダラの南下時期が遅れることへの対応策です。

植栽面積も倍増します。そのための山地の開墾も終わりました。京都西山のこの場所は、南を流れる千丈川の氾濫原で、100年ほど昔の豪雨時の土石流で出来上がった扇状地の上部にあります。堤防やダムが出来て氾濫原や土砂崩壊地などが無くなって、フジバカマは絶滅危惧種になりましたが、この地は栽培適地かと思われます。



この秋は10月中旬まで夏日が続いていましたが、10月17日に日最高気温が一気に7°Cも下がって20°C前後を推移しています。そのためアサギマダラの南下は急速に進み、高地や高緯度の地からは姿を消しました。